

公演レポート①

11月3日にリニューアルオープンされたばかりの横浜みなとみらいホールで開催された「井上道義指揮 NHK 交響楽団 藤木大地」を鑑賞させていただきました。私自身、約2年ぶりのみなとみらいホールで、少し緊張気味で会場に向かいました。

今回のリニューアルではホールの耐震強化やバリアフリー化などを目的としていて所々にユニバーサルデザインが見受けられました。特に階段が少なくなっていることに驚きました。さらに開演案内時に補聴器の音の確認を促すアナウンスがあったこともバリアフリーのソフトな面として素晴らしいなと感じました。

コンサート第1部のオープニングでは初めて聴いた NHK 交響楽団の皆さんの奏でる音に圧倒されました。それぞれの楽器ごとの音のずれが全く感じられず、なおかつ迫力がある演奏が体全身に感じられました。

次に藤木さんのカウンターテナー。実は以前、私はこどもの日コンサート2022の中学生プロデューサーとして藤木さんにお話を伺ったことがあったんです。そして今回のカウンターテナーを聞いた時、これは本当に藤木さんの声なのかと耳を疑うほど、地声とはギャップのある美しい声で、魅力的な5曲をN響の皆さんと演奏してくださいました。

その後、休憩を挟んでN響さんとパイプオルガンのコーナーに入りました。今回のコンサートでみなとみらいホールのパイプオルガンのことを「ルーシー」と呼ぶことを初めて知り、特徴的なパイプオルガンの音を新たな視点で没入することができました。

今回のリニューアル公演は音楽を一つの視点で聴くだけでなく、さまざまな角度からオーケストラを楽しむことができました！

横浜音祭りも残りわずかですが、たくさんの発見があったコンサートを鑑賞させていただくことができました。

(次ページあり)

私は、みなとみらいホールで行われた、「横浜みなとみらいホール リニューアル記念公演 井上道義指揮 NHK 交響楽団 藤木大地（カウンターテナー）」を視察しました。このコンサートで魅力だと感じたのは、「観客の気分を誘導する上手さ」です。

本題に入る前に、2 つほどおまけの発見を報告させてください。1 つ目は、ホールの建物に入ると、通路に、「まるでパイプオルガンを弾いているようなトリックアート写真が撮れる」というフォトスポットがあったことです。みなとみらいホールと、パイプオルガン「ルーシー」のリニューアルを強く印象づける、面白い工夫だなと感動しました。実際に写真を撮っていただくと分かると思うのですが、想像していたより「実際に鍵盤に手を置いている感」が出るのです。

そしてホールに入り、2 つ目に気がついたのは、「補聴器を使っているお客さんに対するアナウンスがあった」ということです。これは私たちがプロデュースしたこどもの日コンサートでも、トルヴェール・クワルテットのコンサートでもやってこなかったことで、確かにその方が親切だなと納得しました。今後ほかの公演でも取り入れていってもいいのではないかと思います。

本題に戻ります。アナウンスがあって、オーケストラの皆さんが舞台に上がり、チューニングを始めると同時に、客席と舞台の照明がふっと弱くなりました。何が始まるんだろうというドキドキ感がたまりません。1 曲目に始まったのは、ヨハン・シュトラウス二世の「南国のばら」。曲が盛り上がるところで、舞台の照明が一気に明るくなり、気分がそれにつられて一気に上がりました。そして、曲の終盤、最も盛り上がるところで、何やら指揮者の井上さんにコンサートマスターの方が何かを渡します。それはなんと、ビールのジョッキ！井上さんは、客席の方に笑顔で乾杯をしながら指揮を振っていました。実は私は井上道義さんのことをこのコンサートで初めて知ったのですが、このお茶目な小道具を使った演出に、一気に虜になりました。また、選曲自体も、耳に残る旋律だし、とても明るい雰囲気、開幕にぴったりだと感じました。

また、このコンサートは mc の方がおらず、私はこの「南国のばら」を含めてこのコンサートで演奏される 3 曲すべて、この機会ですべて初めて知った曲だったので、十分に楽しめるか不安だったのですが、配布されたパンフレットに時代背景や曲の聴きどころの解説などがしっかり載っていたので、知識と一緒にさらに素晴らしい音楽を楽しむことができました。

特に、カウンターテナー・藤木大地さんの登場した 2 曲目の「リュッケルトによる 5 つの歌」

では、原語の歌詞と訳詞がそれぞれ掲載されていて、心情を想像しながら聴くことができました。

そして、3曲目はサン・サーンスの「交響曲 第3番 ハ短調 作品78」。帰ってきたみなとみらいホールにずっしりと自信を持って響くパイプオルガンの音に、私は感動を乗り越えてびっくりしました。オーケストラとの掛け合いのような部分では、その音色をじっくり楽しむことができます。2年以上、ずっと待っていたその響きに、テンションは最高潮になりました。

そして、全ての曲目を演奏し終わった後に、指揮の井上道義さんがマイクをとり、冗談も交えながら、今日のコンサートを振り返り、そしてホールのリニューアルをお祝いするお話をし、出演者への拍手を呼びかけ、最後は大喝采で公演を終えました。あの時間のホール内の静かに興奮した雰囲気は、本当にすごかったと思います。

このように、このコンサートは、演出、パンフレット、選曲などの細かい工夫によって、丁寧に感情が誘導されて、最後にはとても楽しい気分で帰ることができるコンサートだったと感じました。